

# DG 感想文

由佳

TICA ちゃんにお声をかけていただいて恐る恐る踏み入った DG の世界ですがはや4年が経ちました。

そもそも、TICA ちゃんは省吾の掲示板を通じて知り合った、いわばメル友。省吾の未 CD 化のシングルのカップリング曲を私が MD に入れて、TICA ちゃんに送ったことで何度かやり取りした時に

「ねえ、由佳ちゃんって書くことが好きでしょ？ 良かったら一緒にやらない？」って声をかけてくれたのです。

初めての経験だし、何より TICA ちゃんに会ったこともないし、他のメンバーも全然知らない方々なので正直ちょっとビビりました。

TICA ちゃんには未だに会えてないのが不思議でなりませんがいいつも同年齢の感覚で、気遣いせずでしたので TICA ちゃんのお仲間なら、なんとかなるだろう！と思って参加させていただき、今に至ります。

最初は本を読むたびに読書リストのためにメモってましたね～（と、目を細めてみる。。。）

最近はなかなか自分の読みたい本を読めなくなってしまいずっと不参加のままでごめんなさい。で、実際に参加してみて、どうだったかという『みんな、すごいわ。趣味に生きてるわ』というのが号を重ねるごとに感じることです。

まだまだ子育て真っ盛り中ですが、私も趣味に生きていたいと思いますっ!!

みなさま今後ともよろしくです(^\_^) TICA ちゃん、私たちいつ逢えるんだろう!?



「DGのお仲間に入って思うこと」

DG の仲間に入れてもらって、まだ少ししか経っていませんが、とても嬉しく思います。

「同人誌」って、なんか全然自分とは無縁の存在だと思っていたのですが、こんなに身近だったとは新鮮です。

すごく簡単にスッと入って行けたのですが、それはきっと皆さんがとても懐が深くて暖かい方だからでしょう。

そして編集方針が緩やかで、ギスギスしておらず大らかだということに尽きると思います。

それが「来るもの拒まず、去るもの追わず」という鷹揚な姿勢に感じるのでしょう。

でも、その裏には編集側の弛まぬ努力があってこそだと思います。

やはり、「継続は力なり」です。これからもずっとずーっと、死ぬまで続けて行きましょう！

（死んでも孫子の代まで続けられたら素晴らしいですけどね）

編集の皆様には厚く御礼と感謝を申し上げます。

とみいじゅにあ

# 日出彦

日曜日に蔵書整理をしていたら、「宇宙塵」や「一の日会会誌」と一緒に「綾の鼓」が3冊出てきました。実際はもっと発行されていたのだと思いますが、小生のところには3部のみしかありませんでした。これはSFの創作やエッセイや雑文をまとめた同人誌で、うさお君が発行に関与していたと思います。夢枕獏さんなんか書いていたのですね。

「綾の鼓」を斜め読みしてみると、DGのルーツのような気がしました。「綾の鼓」との違いは、“SF”のような統一テーマが設定されていないところでしょうか。

コントラクト・ブリッジのノートランプみたいなのがDG。この「無」に近い設定の下に好きなことが書けるというのが、DGの魅力でしょう。これは最近「わかい人」に流行しているブログとの類似点でもあります。ブログは自虐的に書くと読んで貰えると眞鍋かおりが言っていますが、DGにもときどきそのような部分がみられます。自虐的というのは楽屋落ちでもあり、笑いながら読めることは健康にイイ。またDGはメンバーが増えたとはいえクローズの会ですね。同人誌的あるいは結社的な性格もあります。

実は「CARE研究会」というのを主宰していますが、DGはそれとの類似点も大きいのです。CAREというのは介護の意味ではなく、Computer Aided Reliability Engineeringの略称なのですが、BASICでソフトを作って、それを書籍にまとめた後、本来の意味から離れて、なんとなく品質問題、安全性問題、環境問題などの「何でもあり」研究会になってしまいました。会費ナシ、会員の入会・脱会自由、忘れた頃にイベントを実施などの緩い縛りでもう15年以上続いています。このあたり、DG規約と一脈通じるところがあるようです。

ところで、DGは本来「読学」のことですよ。でも、最近は「読書リスト」は付録になってしまって、片身の狭い思いをしているようです。自分も殆ど寄与していなくて申し訳ありませんが……。

裏方になった「読書リスト」に対して、DGの表の顔は表紙ですが、「表紙は語る」を読んでもまだよく分からないことが多く、小生にはDGの中でずうっと謎のある部分です。

内容を見ると、メンバーがそれぞれ自分の得意分野で「エッセイ」や「評論」を書いている部分にDGの魅力があると思います。実際にそれらにページを割いていて、目下製本限界すれすれの厚さに達しているのではないのでしょうか。それで、vol.35は「読書リスト」が別冊付録になったのかな。印刷技術の進歩というべきか、最近のDGは写真誌のように鮮やかです。同人誌に詳しい木田君に聞くと、美しさは抜群とのこと。 (木田君は「滝見一樹」のペンネームで「綾の鼓」にも寄稿していました。)

前にも書きましたが、いまのDGは「独楽」かなと思います。互いの趣味には干渉しないで温かい目でみていることが長命の秘訣のようです。この辺は「DOKU-GAKU 掲示板」の投稿を読むとよく分かります。この調子で地球ゴマみたいにブンブン回り続けて欲しいものです。





始まりは省吾を通じての TICA ちゃんとの出会いでした。  
 毎日の様にメールでお話しして（最近はずっとご無沙汰だよな…ごめん！）  
 省吾の事、趣味の事や読書の事で盛り上がっていました。  
 そのうち、読書の会に入らない？とお誘いを受けました。  
 初めて DG を手にした時、私がずっとあこがれていた、同人誌…  
 作家や歌人が集まって作る冊子をうんとおしゃれにした感じに、まずびっくり。  
 そして内容も本格的な拘りがあって、何よりもさすがに読書を楽しむ会…と  
 いうのにふさわしい、皆さんの読書量に本当に驚きました。  
 仲間に入れていただいて以来毎号 DG が届くのを楽しみにしています。

俳句を少しだけやっているのでも「十七文字」を担当させていただいていますが  
 文章などから堅い「学校の先生タイプ」と思っていたと TICA ちゃんに言われる通り  
 少し堅いのかな～？もう少し砕けた「十七文字」の方が投句あるのかな…？などと考えています。  
 コーナーも色々増えて、読み応えのある文章力のある方ばかりなので面白く読ませていただい  
 ています。写真も美しく豊富になったし本当に楽しみです。  
 これだけの文章力のある会員揃いなものだから、持ち回りでウィットに富んだ「ショートショート」  
 などというショートストーリーのコーナーなんかあると面白いと思いますが…（締め切りにもな  
 かなか間に合わないくせに・・）  
 何はともあれ私の人生の中で DG に出会えた事は、大きな意味を持つと思っています。  
 物書きになりたい…という夢を少しだけかなえてもらって、さらにこの夢をもっと現実のものに  
 したいという大きな夢に繋いで五十路をひた走る原動力にして行きたいと思っています。



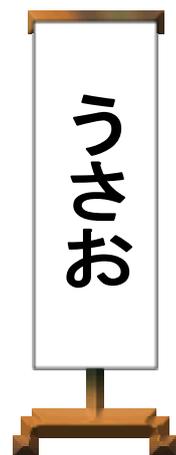
実は最近毎回前号の感想文を書いているので、とりたてて感想を述べるころは無い  
 のですが、この頃頃に思うのは、人というのはやはり操られるものがないと文章を書く  
 気がおきないものだなと言うことでしょうか。ほんのちよつとの後押しの言葉で、うん、  
 書かなくちゃって思います。

催促の言葉は大作家になったようで心地良いです。褒めてくれるのは温泉に浸かっている  
 ようです。

尤も自己中の人には自分の書いた文章しか繰り返して読みませんけどね。

矢澤さん得意の「幸福論」とか、皆さん一家言のある方々ばかりの「音楽論」、「ミステ  
 リー論」などを企画に当てても良いでしょうし、名指しでこういう研究発表をしてく  
 れと言うのも面白いでしょうね。

三者三様の「浜田論」とか、私はなりきれるとか、私は浜田家に行ったことがあるとか、省吾に  
 無言電話を掛けたとか、剃刀を送りつけたとかご自分たちの秘話などを披露するのも、大変面白  
 いと思います。キツク内容は余りにもコアで2チャンネルのようで隠微な興味を掻き立てま  
 す。そのような企画を今後もお願いしたいと思います。



<日出彦さんへ>

DOKU-GAKUの名前についていまごろですが、説明させていただきます。  
DGの正式名称は「読書を楽しむ会」といいます。CACCOが名付け親です。(ユースケの柔らかさを持つのに、こういうところはカタインですねえ…昭和ですねえ…)  
なにしろ発起人が、今は姿が見えませんが当時は確かにいたグリコとCACCOと私です。「読んで学ぶ」などという高尚な気持ちは持ち合わせていません!(ああ、胸を張って言ってしまった…)

しかし「読書を楽しむ会」ではあまりに昭和なので、浜田省吾の浜省のように「読楽」と縮め、「ガク」には「音楽」の意味も持たせて、グリコのスガシカオ、CACCOのミスチル、私の浜省を好きなだけ語る場所にしたのです。

だからやたらとSクンや浜省が出てくるなあと思われるのも当たり前といえば当たり前のことなのです。と、名前の由来を語りつつ自己弁護に走ってしまいましたが、DOKU-GAKUは「独学」でもあり、「毒楽」(毒薬ではありません)でもあってよいと思います。がみちゃんが長い休眠状態に入っているの、最近のDGには毒の部分はやや欠けているのが惜しいところです。

それにしても、GACKTを好きだったら「ガク」にもっと意味があったのにとすると残念です。あ、今からGACKTファンを見つけてDOKU-GAKUのガクはGACKTのガクだよおって嘘ついて仲間に入れちゃえばいいんだっ(^\_^)v ってそこまでしてDGメンバー増やしたいのか、あたし!!

<y u k oさんへ>

確かに逢うまでは先生みたいな人かなと思ってはいたけれど、二回も逢ってしまった今はカタイなんて思ってませんことよ。十分おっちょこちょいなとも見せて頂いてるし(^.^)

17文字の雰囲気はy u k oさんらしく穏やかでとってもよいです。DGの一服の清涼剤の場所です、ほんと。投句がないのは、私の場合は本気で「出来ない」っていうだけのことです。

みなさあん、どんどん投句してください。感性が鈍っちゃいますよ。たまには、紅葉を眺めながら一句いかがですか?優しいゆうこセンセイが上達させてくれますよお。(プレッシャー?)

ショートショート、むっずかしいなあ。以前CACCOと順番に書いて行くっていう企画をたてたことがあって、とりあえず二人で「バトン」ってタイトルだけ決めて2回ずつやってみたことがあったけど、あれはどこにやっちゃいましたかねえ、CACCOさん。オチを考えずに無責任にどんどん話を進めて次の人にまわしちゃうってのはどおでしょね。

最後に、会員になった年月を書いておきます。

- Vol. 1 (1999. 9. 27) 健、がみこ、うさお、グリコ、CACCO、TICA
- Vol. 4 (2000. 4. 1) y u k o
- Vol. 6 (2000. 8. 20) 由佳
- Vol. 12 (2001. 9. 1) 日出彦
- Vol. 24 (2003. 11. 15) タツノオトシゴ、Tomy Jr.
- Vol. 25 (2004. 1. 25) 矢澤洋爾

7周年に向けてこれからも長いお付き合いをよろしく申し上げます。

